

2015年3月期第2四半期決算説明会

2014.11.20

NIPPON YAKIN

日本冶金工業株式会社

本日のアジェンダ

1. 2015年3月期第2四半期決算サマリー

経理部長 小林 伸互

2. 足元の状況と競争力強化の取り組み

代表取締役社長 木村 始

＜参考＞主要データ(連結ベース)

2015年3月第2四半期決算のポイント

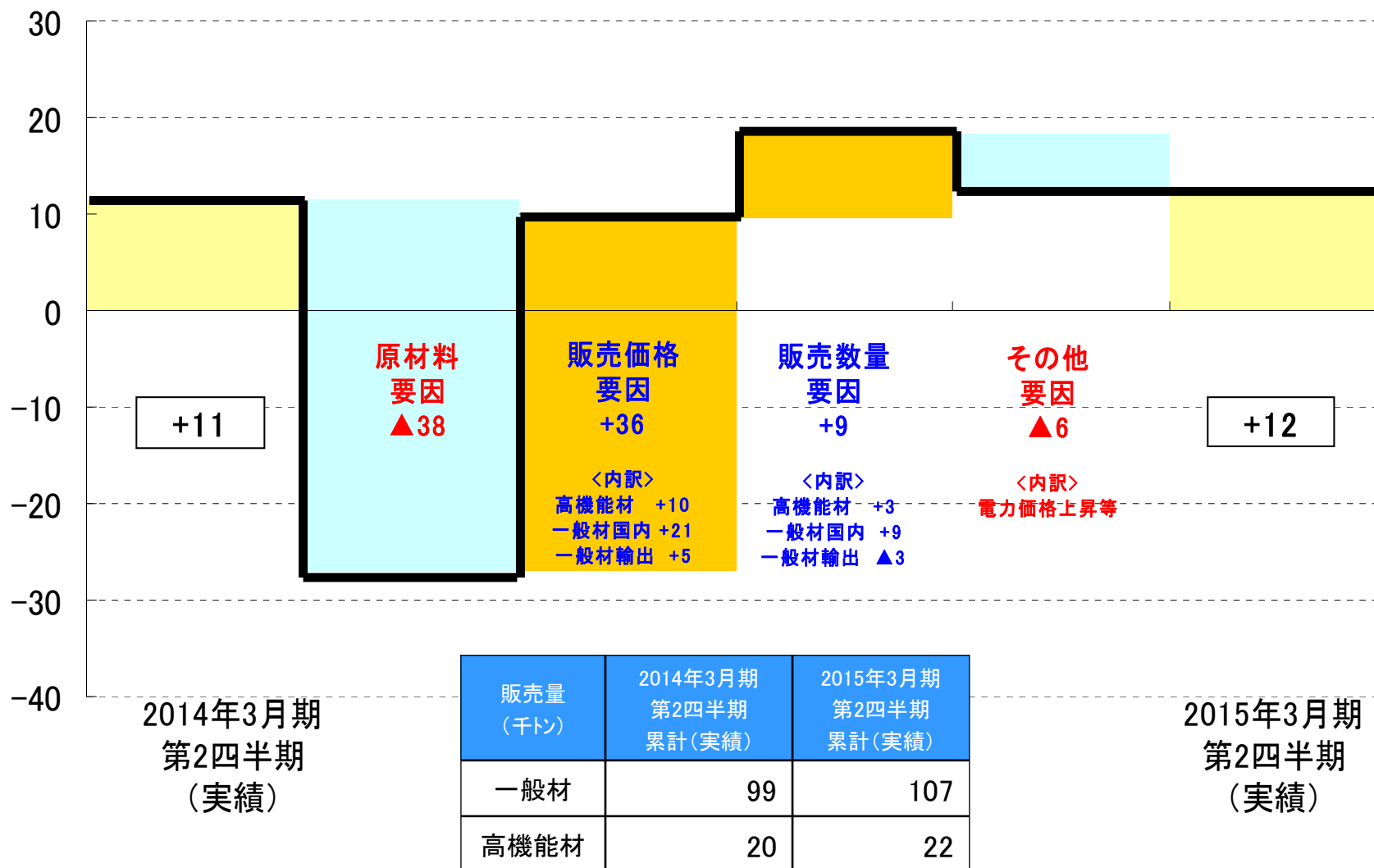
- ① ニッケル相場急騰と円安定着により原料価格が高騰したが、販売価格適正化を一定程度実現し、前年同期比増収増益を達成
- ② 国内経済の回復傾向による一般材販売量増加や海外での高機能材拡販も収益確保に寄与
- ③ 電力などエネルギーコスト上昇分の販売価格への反映は不十分
- ④ 原料やエネルギーコストの動向は不透明であり通期業績予想は据置き

損益計算書 連結 概要

	2014年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	2015年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	576	640	64	11.2
営業利益	12	12	1	7.2
経常利益	6	8	2	29.5
当期純利益	5	6	1	25.2
高機能材部門 売上高比率(%)	35.4	35.0		

(ご参考)ニッケルLME期中平均価格：2014年3月期上期6.55US\$/Lb、2015年3月期上期8.40US\$/Lb。

営業利益変動の要因分析(前年同期比較:億円)



貸借対照表 連結 概要

	2014年3月末 (億円)	2014年9月末 (億円)	前期比増減 (億円)	2014年3月末 構成比(%)	2014年9月末 構成比(%)
現金・預金	66	52	▲ 14	4.8	3.7
売掛債権	207	208	1	15.0	14.6
たな卸資産	299	348	49	21.8	24.5
その他流動資産	5	3	▲ 1	0.3	0.2
固定資産	797	810	12	58.0	57.0
【資産合計】	1,374	1,421	47	100.0	100.0
借入金	618	650	32	45.0	45.8
その他負債	445	449	3	32.4	31.6
【負債計】	1,064	1,099	35	77.4	77.3
【純資産計】	310	322	12	22.6	22.7
自己資本比率(%)	22.5	22.6			

キャッシュフロー計算書 連結 概要

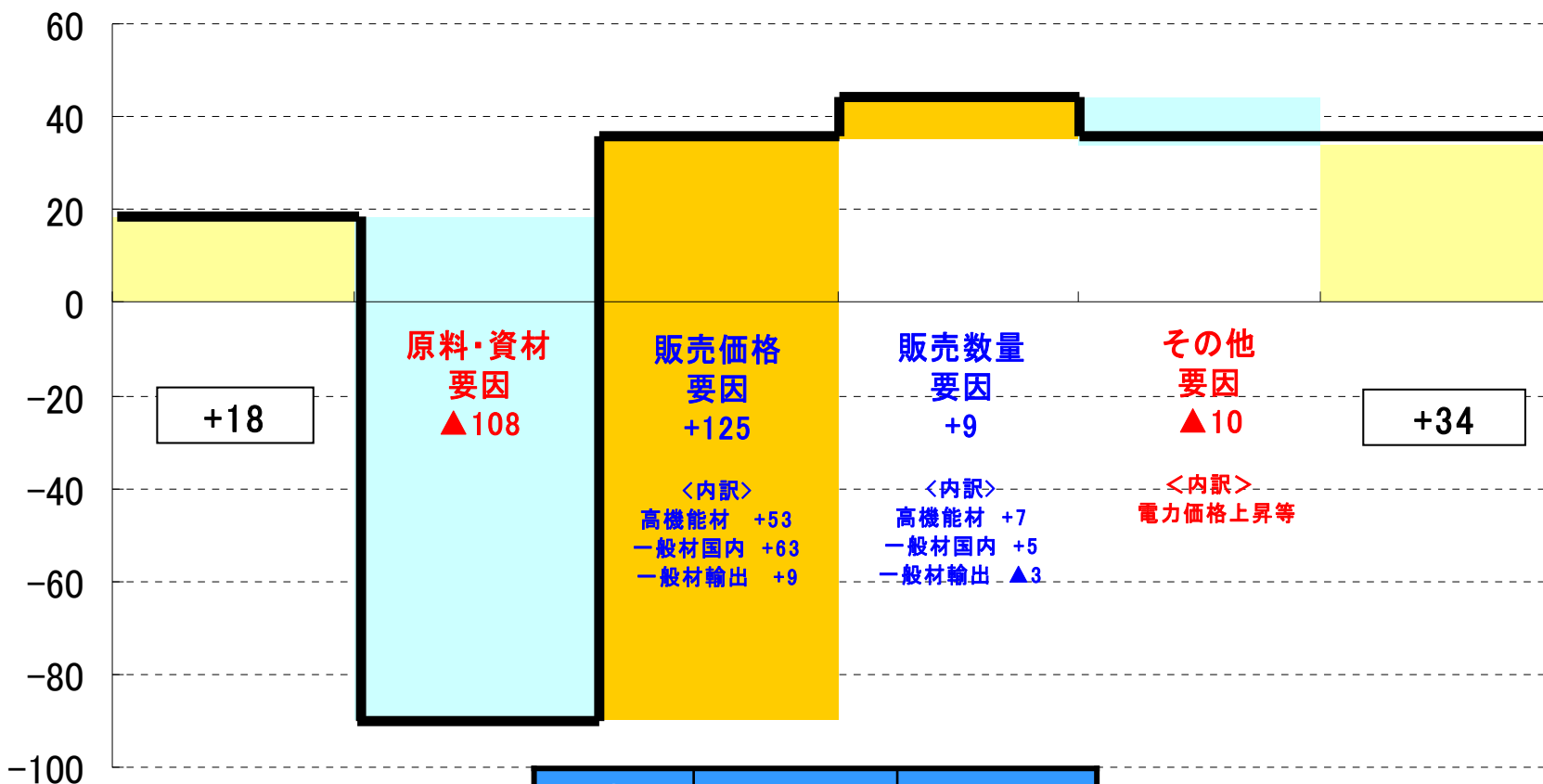
	2014年3月期 第2四半期 累計実績(億円)	2014年3月期 第2四半期 累計実績(億円) (期末休日影響除く)	2015年3月期 第2四半期 累計実績(億円)	前年比 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	▲ 15	(14)	▲ 29	▲ 14
税金等調整前中間(当期)純利益	6	(6)	8	3
減価償却費	19	(19)	17	▲ 2
売上債権の増加額(△)又は減少額	18	(23)	▲ 1	▲ 19
たな卸資産の増加額(△)又は減少額	▲ 22	(▲22)	▲ 49	▲ 27
仕入債務の増加額又は減少額(△)	▲ 33	(▲9)	▲ 6	27
法人税等の支払額	▲ 0	(▲0)	▲ 1	▲ 0
その他	▲ 3	(▲3)	2	5
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 14	(▲13)	▲ 13	2
有形・無形固定資産の取得による支出	▲ 14	(▲13)	▲ 15	▲ 1
その他	0	(0)	3	3
フリー・キャッシュフロー	▲ 30	(1)	▲ 42	▲ 12
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 9	(▲3)	28	37
長短借入金の純減少額(△)	▲ 3	(3)	32	35
その他	▲ 6	(▲6)	▲ 4	2
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	▲ 39	(▲3)	▲ 14	25

2015年3月期連結業績予想

	2014年3月期	2015年3月期		
	通期実績 (億円)	今回予想 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	1,199	1,260	61	5.1
営業利益	18	34	16	86.4
経常利益	6	19	13	210.1
当期純利益	5	16	11	233.2

(前提)2015年3月期下期ニッケルLME期中平均価格: 8.00US\$/Lb、為替レート 107円。

営業利益変動の要因分析(前期比較:億円)



販売量 (千トン)	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (予想)
一般材	213	213
高機能材	40	44

本日のアジェンダ

1. 2015年3月期第2四半期決算サマリー

経理部長 小林 伸互

2. 足元の状況と競争力強化の取り組み

代表取締役社長 木村 始

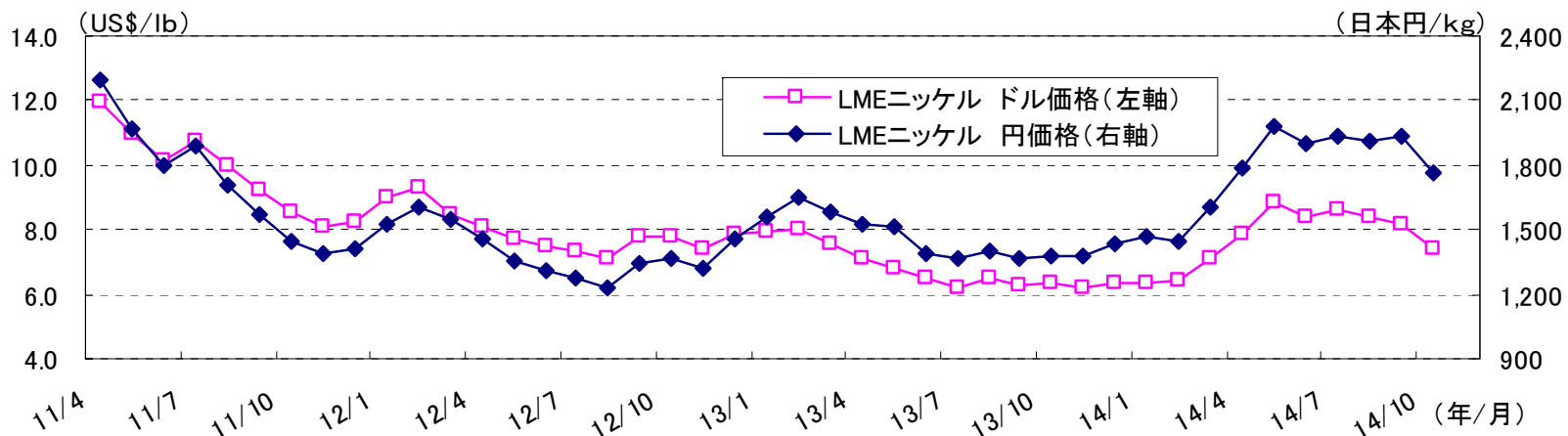
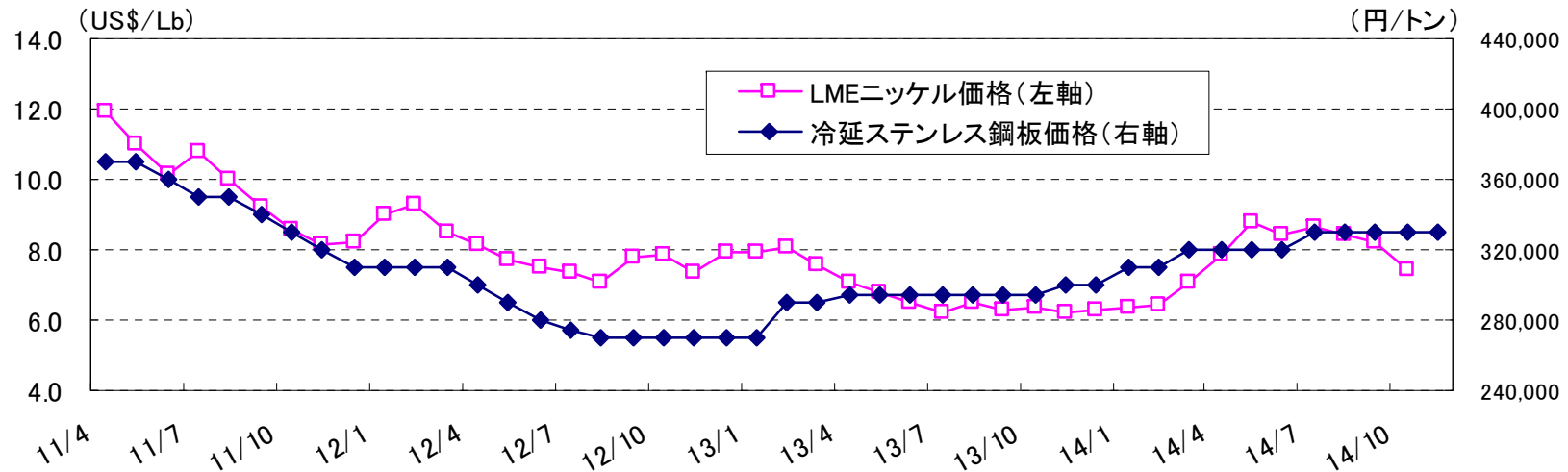
＜参考＞主要データ(連結ベース)

ステンレス一般材の状況

	今年度上期	下期方針
国内	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 消費財向けは、建築・自動車・業務用厨房関連を中心に活況が続いて受注は堅調に推移 ➤ 生産財向けは、造船・水処理関連など一部堅調な部門もあったが、設備投資意欲は弱く概ね低調 ➤ 輸入材(主に韓国)は、円安進行にもかかわらず流入量の減少は小幅 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2Q後半からのLMENi価格下落を受けて足元のマーケットは調整局面 ➤ 円安影響もありマーケットの調整は早晩一段落すると予想され、後半にかけて受注回復を想定 ➤ エネルギーコストの販売価格への反映はいまだ不十分と認識 ➤ 輸入材流入も大きな変化は無いと想定するが引き続き注視
海外	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 引合自体は堅調であったが海外メーカーの売込が激しく市場価格に低下圧力、円安にもかかわらず受注は伸び悩み ➤ 為替変動を睨み慎重な受注活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 海外メーカーの安値提示による市場価格の低迷が続くと想定 ➤ 為替変動を睨みながらの採算を重視した慎重な受注活動を継続

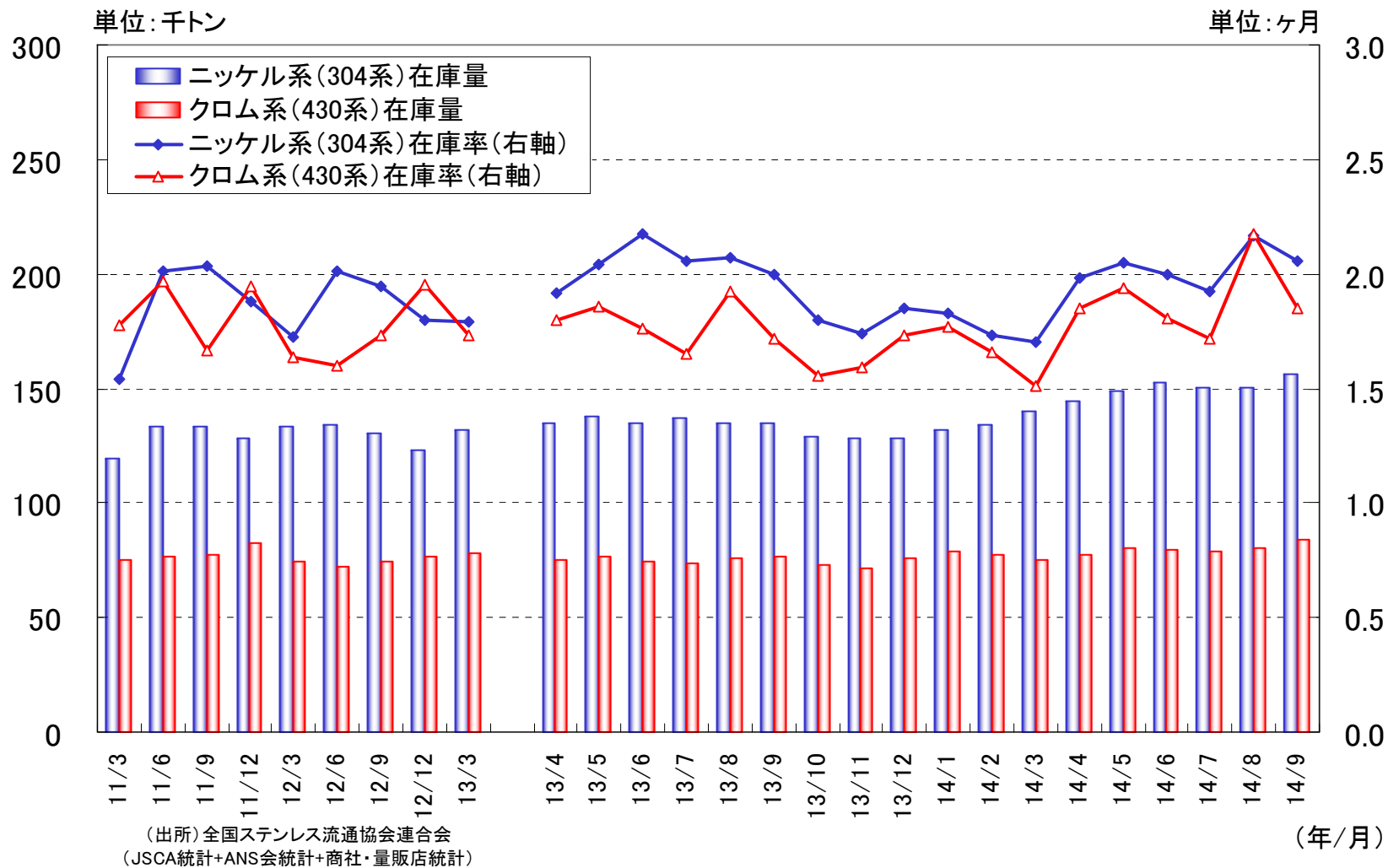
ニッケル・ステンレス価格の推移(月次)

- インドネシアのNi鉱石輸出規制を背景として4月に急騰、一時\$9/lb台へ
- 9月末に下落し、現在は\$7/lb前後で推移



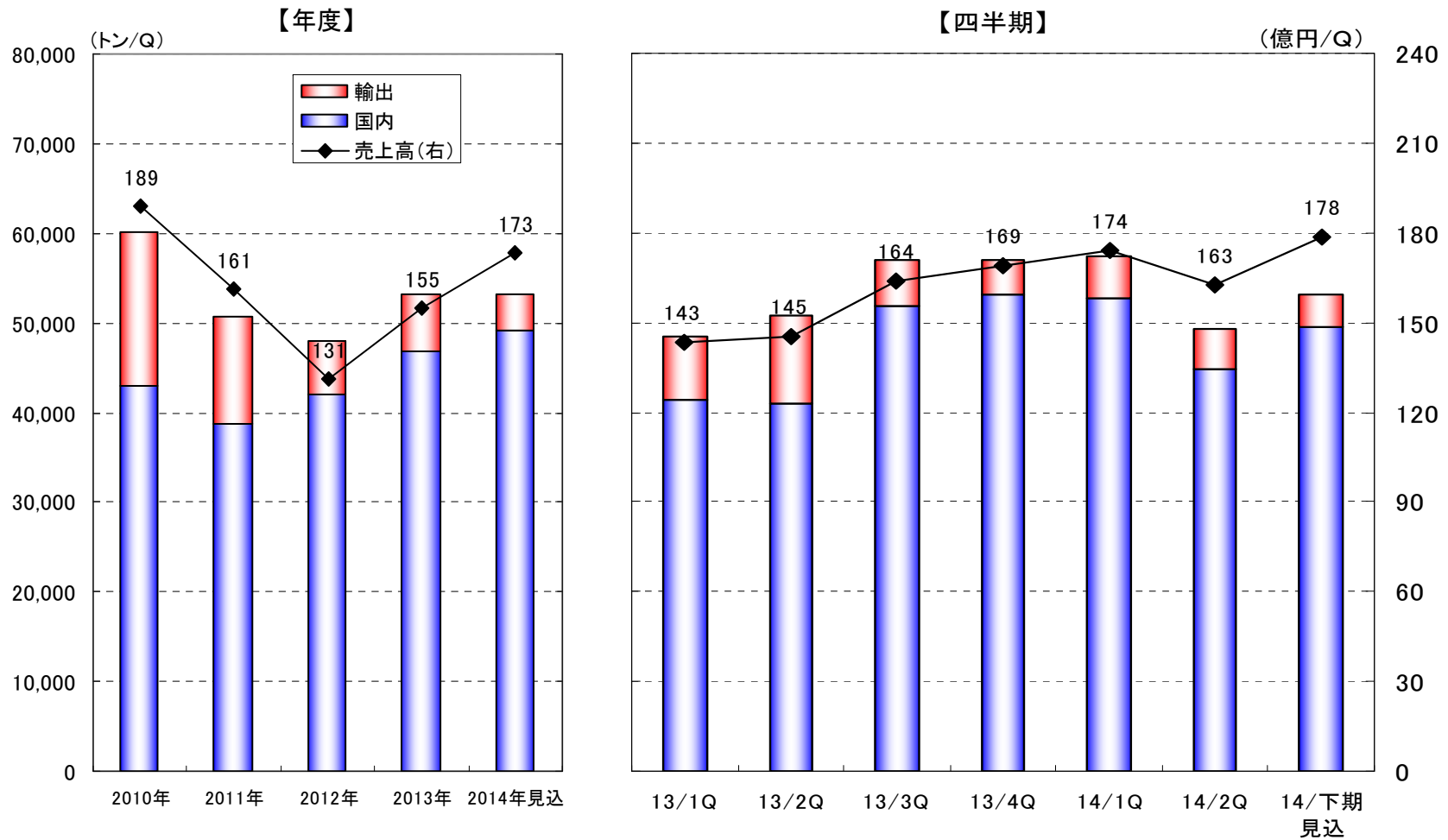
(注1) 冷延ステンレス鋼板: 東京SUS304種18-8、2.0ミリ。
 (注2) 2014年11月価格は冷延ステンレス鋼板は直近。
 (出所) 鉄鋼新聞。

汎用ステンレス(ニッケル系・クロム系)在庫の推移



販売量及び売上高《ステンレス一般材》

▶ 第1Qは消費税引き上げ影響見られず堅調、第2Qは夏季定修影響により減少

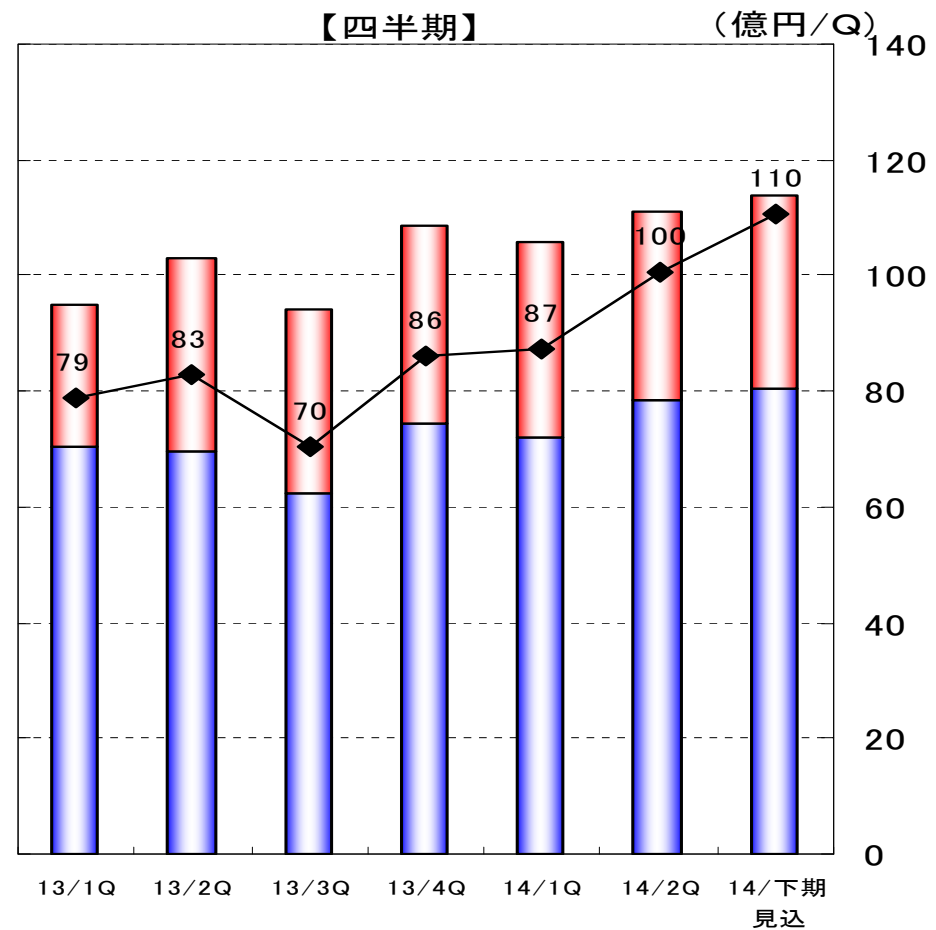
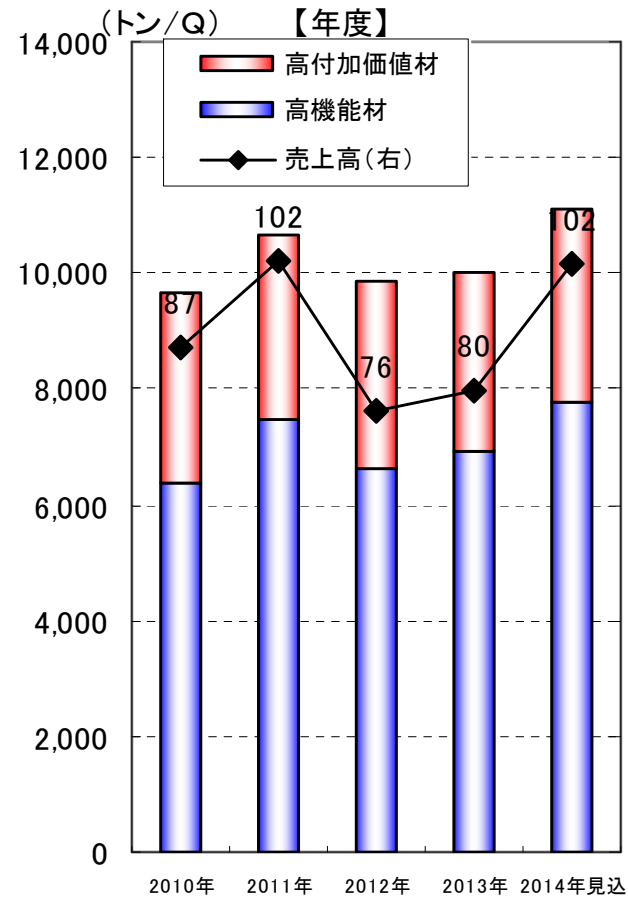


高機能材部門の状況

	今年度上期		下期方針
国内	<ul style="list-style-type: none"> 公共工事、貯水槽、溶接用途などの需要が堅調 円安傾向継続により石油化学関連向けなど間接輸出案件の需要が拡大 		<ul style="list-style-type: none"> 政府が推進する「国土強靱化」に関する公共インフラ需要が少しずつ動き出すと予想 案件初期段階から各ユーザーへのアプローチを図り受注に繋げる取り組みを強化 円安傾向が強まり、さらに間接輸出案件が増加すると予想、海外拠点と連携した受注活動を展開
海外	中国	<ul style="list-style-type: none"> 排煙脱硫装置向けや石油/ガス関連の需要が強い 経済成長の鈍化、日中関係改善が進展しない状況下で営業活動の難しさを感じる局面もあり 	<ul style="list-style-type: none"> 排煙脱硫装置向け、石油/ガス関連、ファインケミカル分野の需要は拡大すると予想 耐食鋼を中心に積極的受注を企図
	韓国	<ul style="list-style-type: none"> 電子/電機分野の需要は堅調 ウォン高による景気減退の影響が大 数年前に見られた韓国ファブリケーターによる海外物件受注の勢いにやや陰りの見られる局面あり 	<ul style="list-style-type: none"> 依然、韓国ファブリケーターは世界各国の石油/ガス関連設備の受注を推進しており、耐食鋼を中心として需要取り込みを図る
	北米	<ul style="list-style-type: none"> オイルサンド、シェールガス・オイルなど石油/ガス関連のプロジェクトが旺盛 	<ul style="list-style-type: none"> シェール関連、オイルサンド関連案件に使用される耐食鋼を中心に拡販展開
	欧州	<ul style="list-style-type: none"> 景気回復は停滞気味だが円安を背景に溶接用途、圧延用素材などの受注が可能な環境へ変化 	<ul style="list-style-type: none"> 円安を生かし溶接用途などのユーザー掘り起しを企図 日系企業を通じて電力関連需要の取り込みを図る
	中南米	<ul style="list-style-type: none"> 米国の景気回復に伴いシーズヒーター向けが好調 海底油田プロジェクトが活況を呈しており、中南米以外(韓国、東南アジアなど)からの間接的需要もあり 	<ul style="list-style-type: none"> シーズヒーター向けは好調な状況が続くと予想、最大限の受注に注力 同地区の石油/ガス関連ファブリケーターの開拓を推進
	東南アジア	<ul style="list-style-type: none"> 石油/ガス、石油化学分野などの潜在需要はあるが、現地のファブリケーター、問屋が成長途上であるため、需要が他地域へ流れる傾向あり 	<ul style="list-style-type: none"> 日系企業へのアプローチを重ね技術的アドバイスを含めた良好な関係構築を図り、耐食鋼を中心とした高機能材受注を目指す
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 1Qは原料価格急騰、2Qは原料価格下落と円安進行など相場の急激な変化があり、プロジェクトの停滞も散見 	<ul style="list-style-type: none"> 石油/ガス関連プロジェクトや発電関連は拡販余地あり CO2回収や核廃棄物処理、船舶の排ガス処理分野など廃棄物に関する高機能材適用事例が今後増えるものと考えられ、積極的な取り込みを目指す

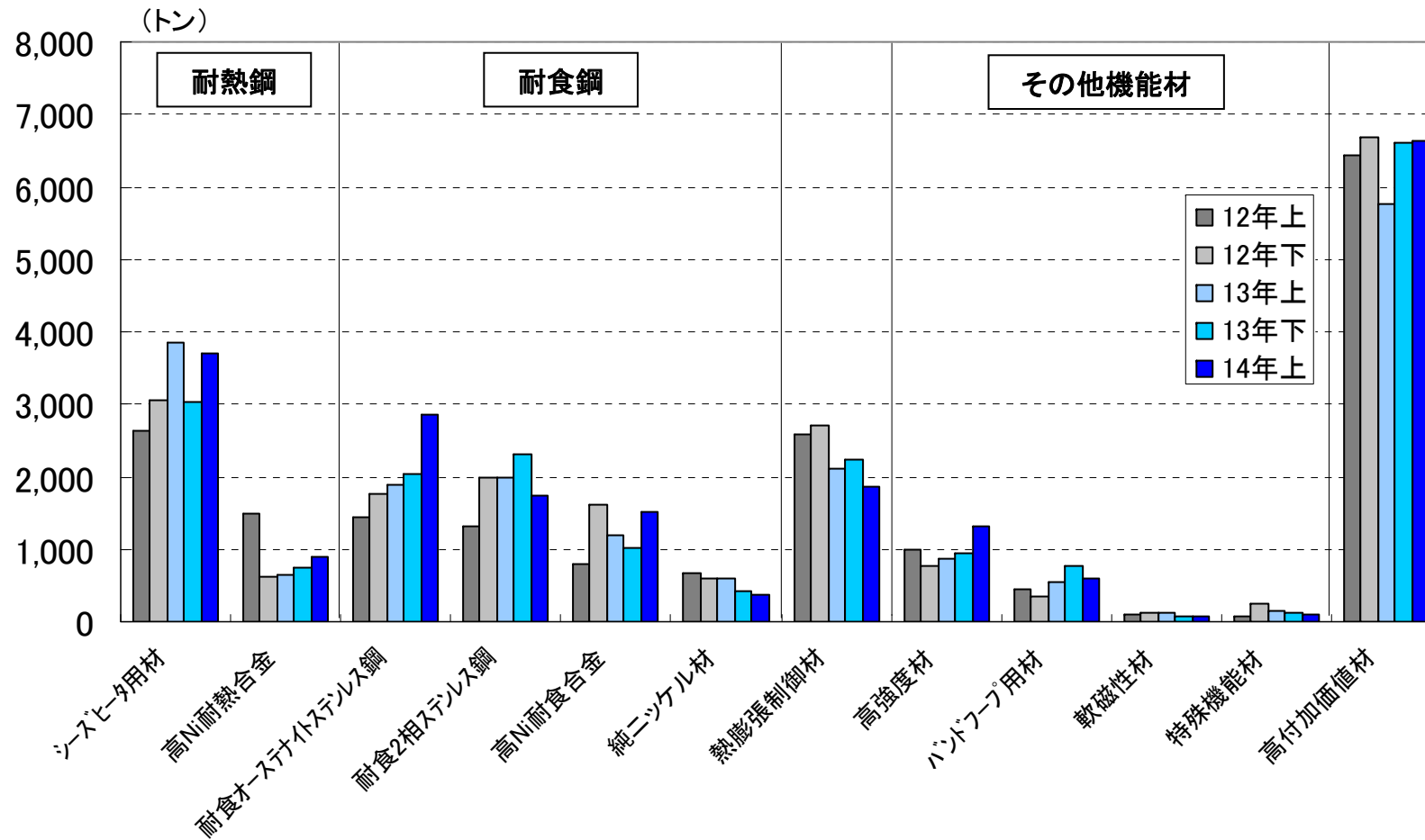
販売量及び売上高《高機能材部門合計》

➤ 半期の販売量としてはリーマンショック以降で最高を記録、昨年実施した営業体制見直しも寄与



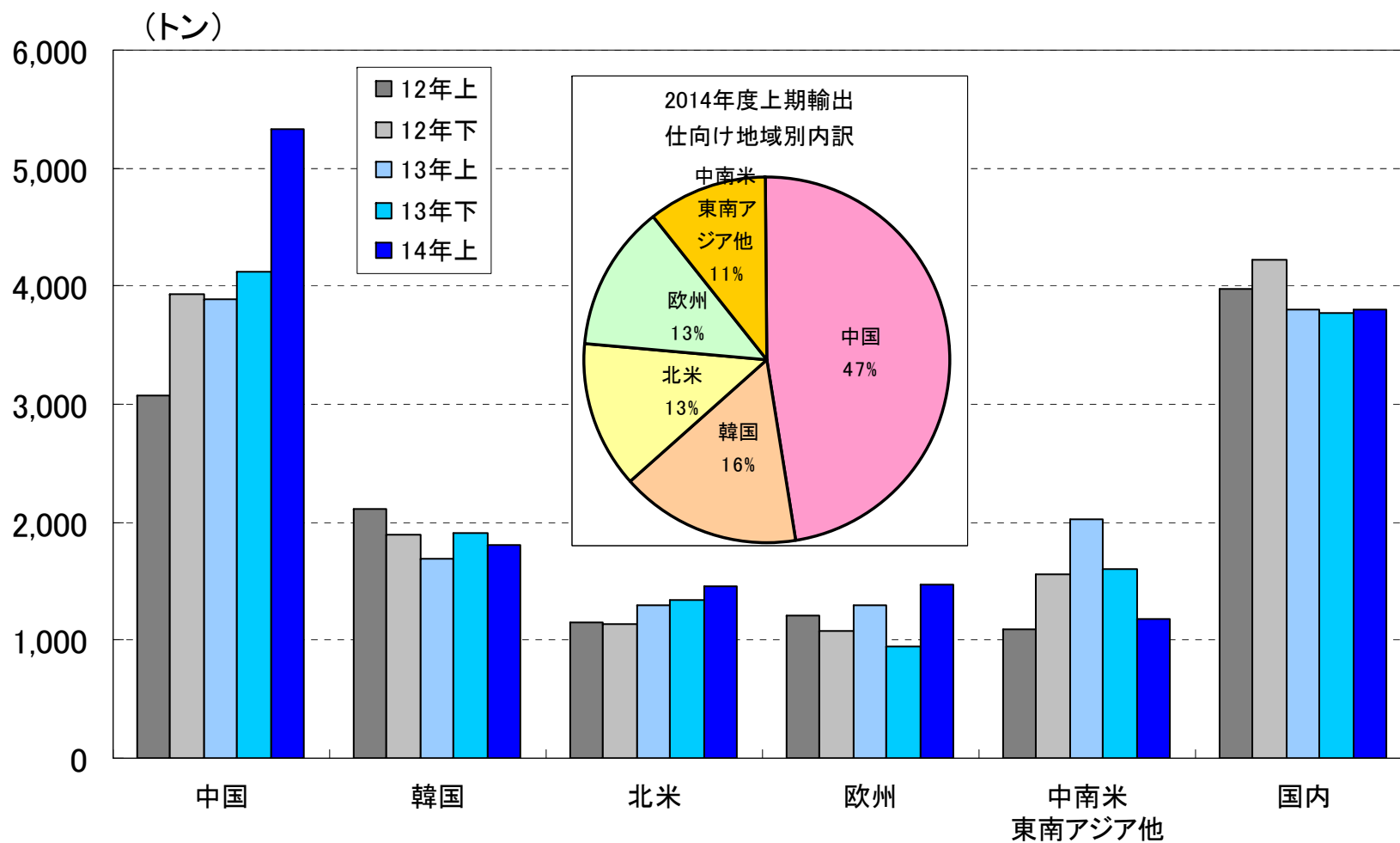
高機能材部門用途別分類の販売量推移

➤ 耐食オーステナイトステンレス鋼(発電/環境)、高Ni耐食合金(石油/ガス)など、中計で拡販ターゲットとしている分野が好調



高機能材の仕向け地別販売量推移

➤ 中国は発電/環境や化学分野、北米は石油/ガス分野が好調、その他地域も概ね堅調



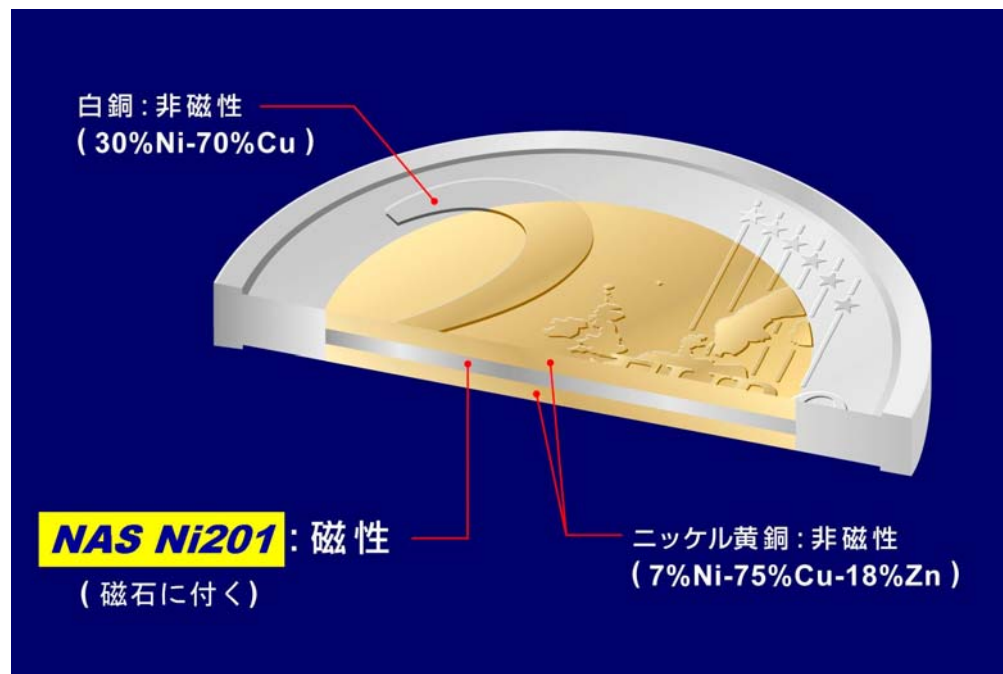
高機能材紹介 ユーロ硬貨

・Niは比較的高価なレアメタルの一種であるため、硬貨用素材の合金として古くから使用されてきました。

・近年、Niの磁性を利用し偽造防止のために精密に磁気特性を調整したトリメタル(※)コイン用材料として純ニッケル材がユーロ硬貨に使用されるようになりました。

・当社のニッケル純度99.6%以上の純ニッケル材は、2012年以降発行された1ユーロ及び2ユーロ硬貨の一部に採用されています。

※トリメタル・・・中間に別の材質を挟み込んだ構造の3種のメタルから構成されたもの



	名称 (JIS規格)	化学成分(%)	
		ニッケル	クロム
純ニッケル材	NAS Ni201 (NW 2201)	≥99	-
一般材(汎用ステンレス)	NAS304 (SUS 304)	8	18



配当について

➤ 2015年3月期の中間配当

誠に遺憾ながら見送ることとさせていただきます。

➤ 2015年3月期の期末配当

経営環境は依然厳しく先行きへの不透明感があることから現時点では未定としております。今後の業績を見極め、開示可能になった時点で速やかにお知らせ致します。

本日のアジェンダ

1. 2015年3月期第2四半期決算サマリー

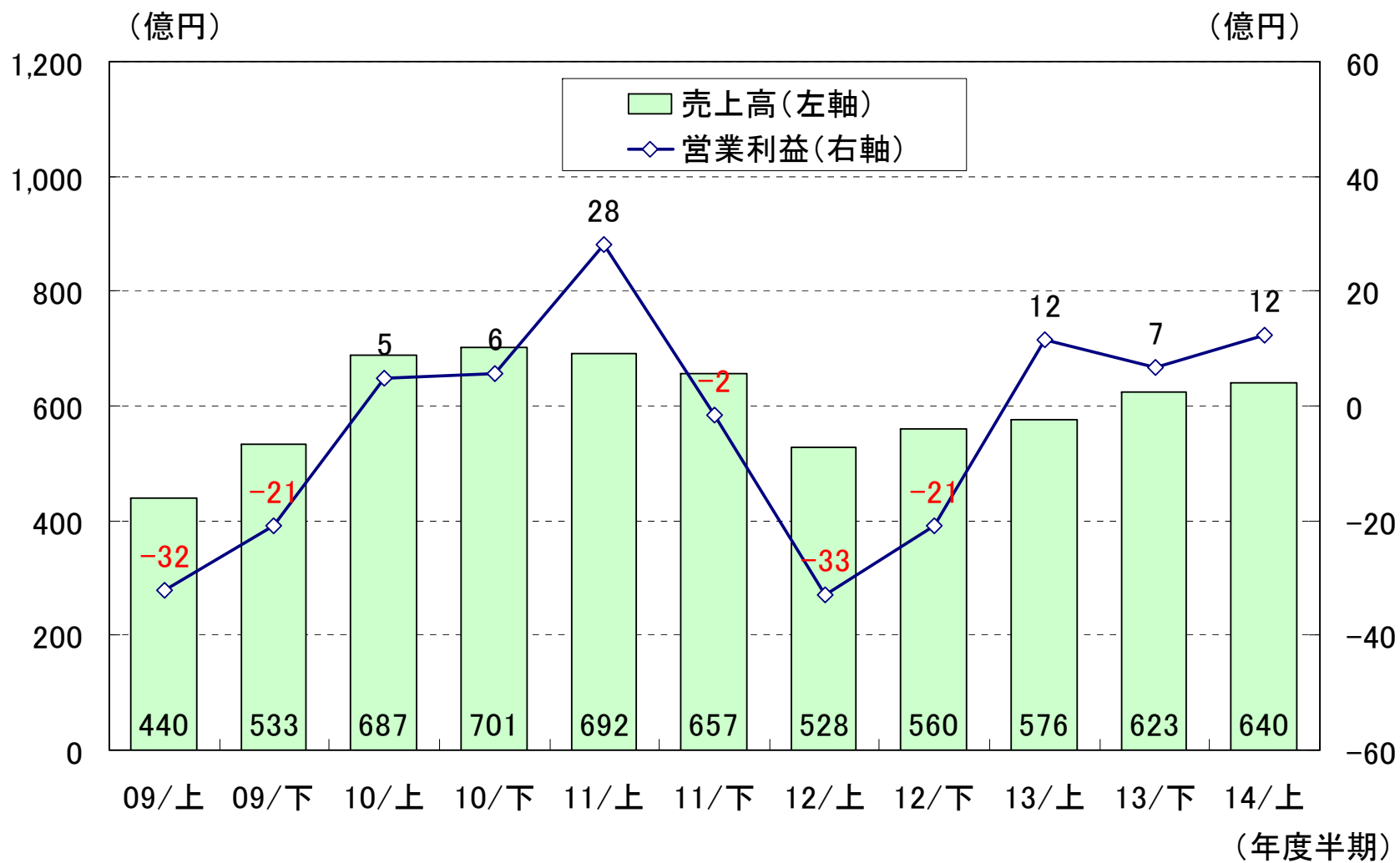
経理部長 小林 伸互

2. 足元の状況と競争力強化の取り組み

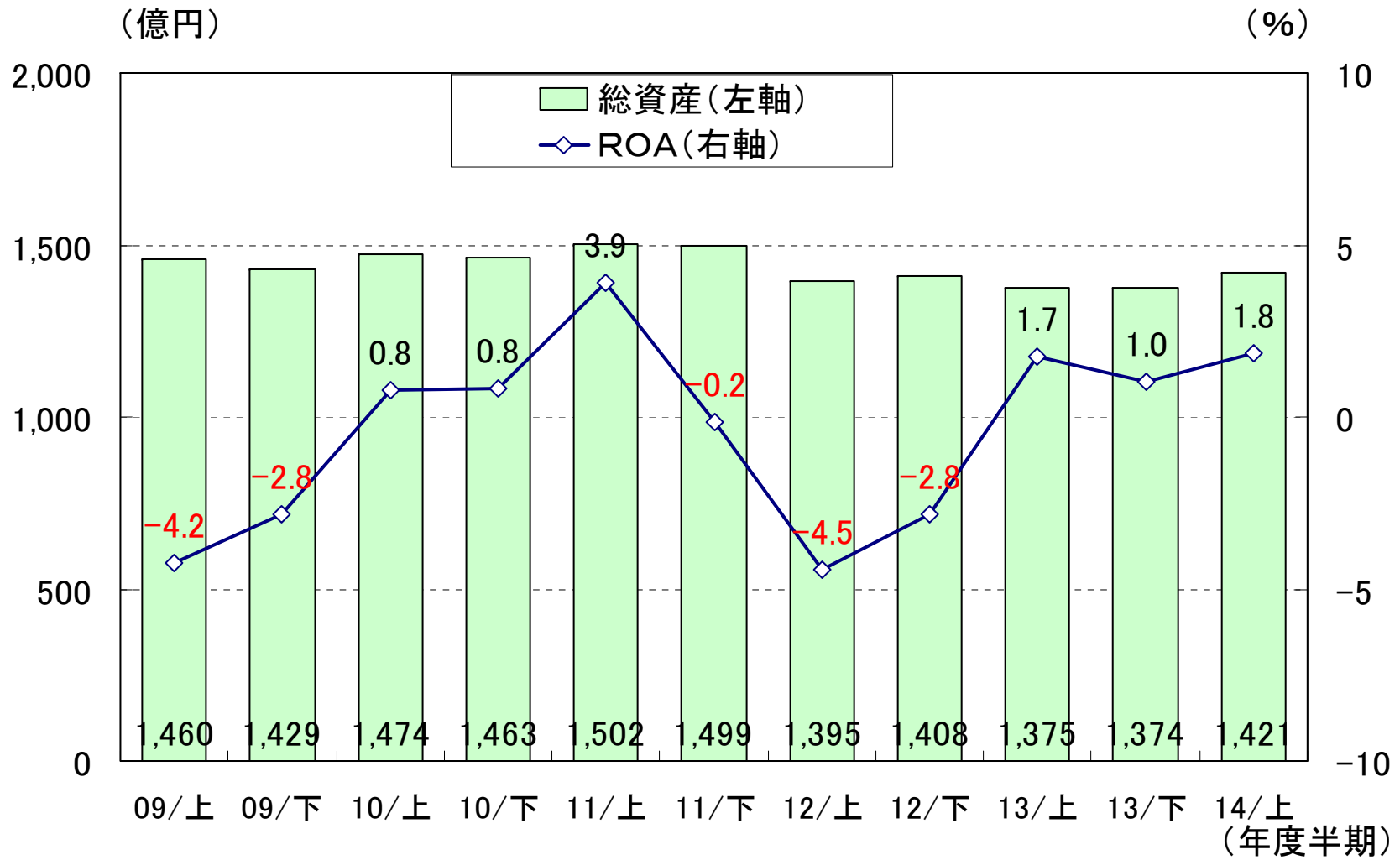
代表取締役社長 木村 始

＜参考＞主要データ(連結ベース)

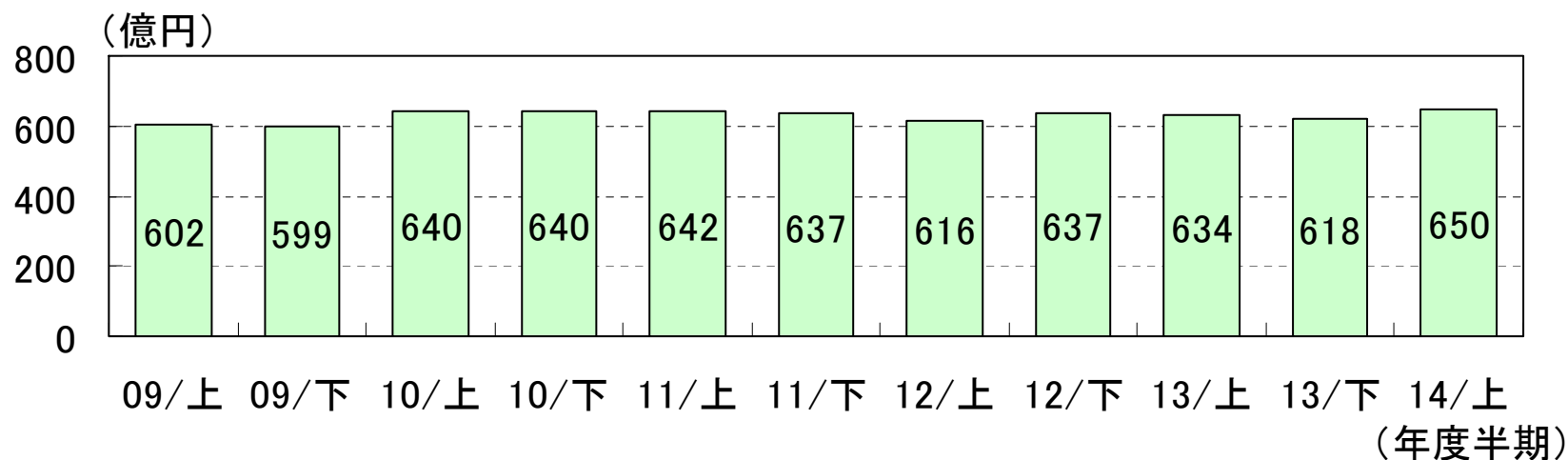
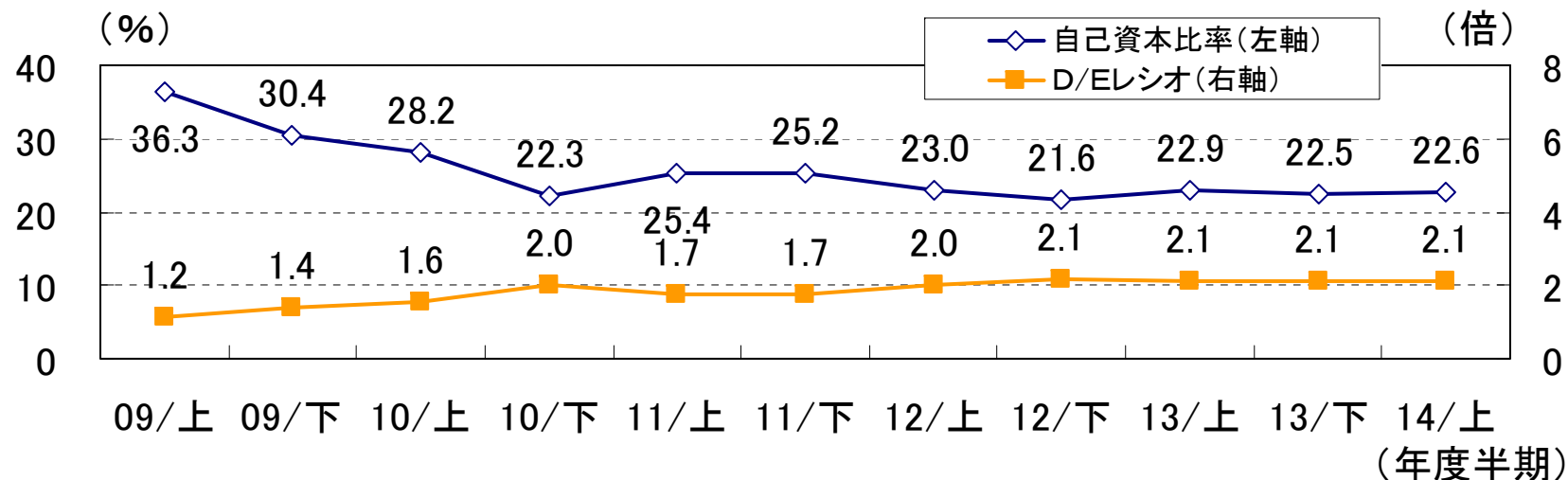
売上高・営業利益



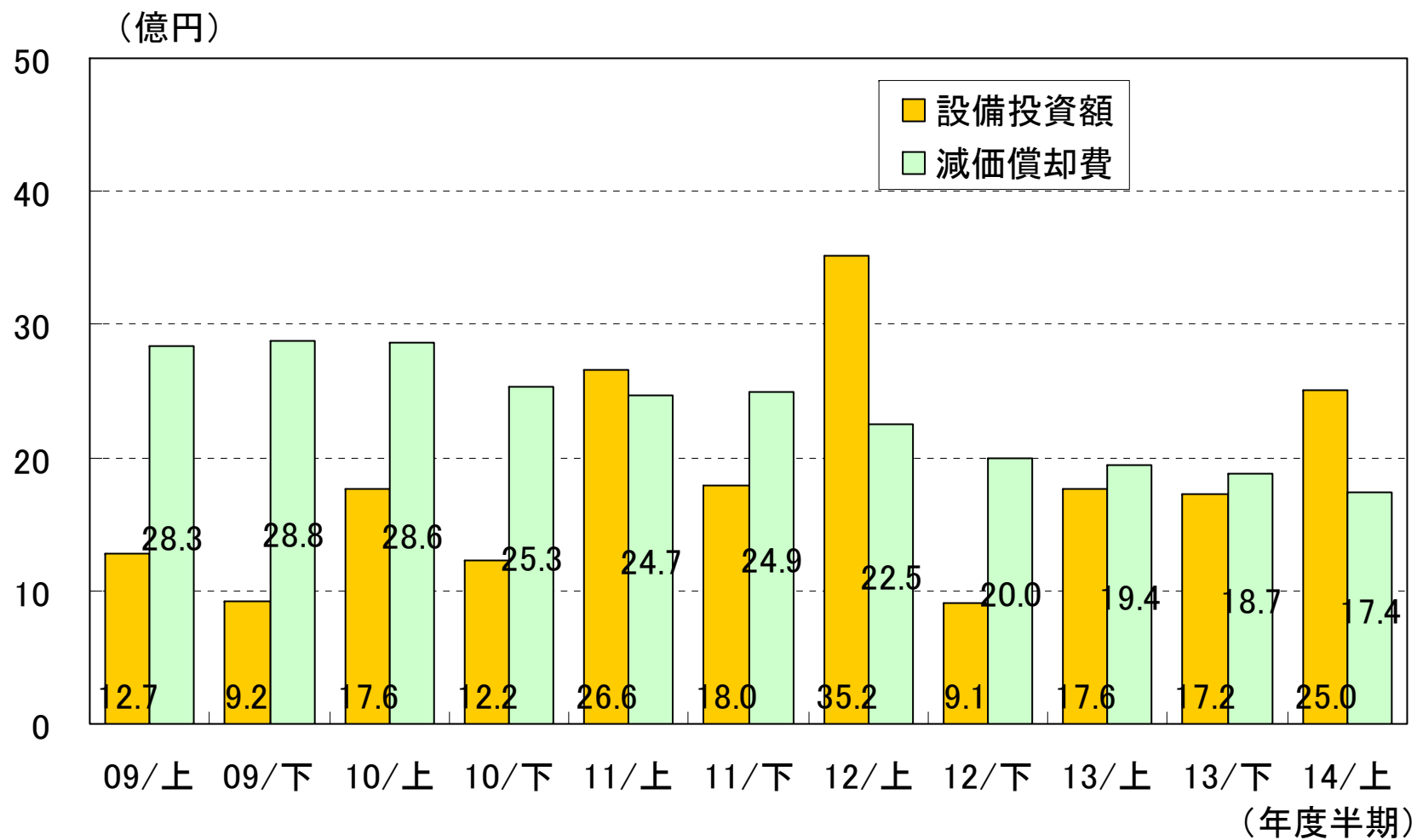
総資産額・ROA



有利子負債残高と自己資本比率、D/Eレシオ



設備投資(連結ベース)



歴史あるステンレスメーカーから新しいステンレス特殊鋼メーカーへ
～そして競争力No.1の高機能材メーカーへ～

日本冶金工業

本資料のいかなる内容も、弊社株式の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載された計画や見通し、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切の責任を負いかねますので、ご承知下さい。

【本件に関するお問い合わせ】

日本冶金工業株式会社 IR事務局

Tel. 03-3273-3613 /

E-MAIL. irjimu@nyk.co.jp